

JENESYS2018 ASEAN 派遣プログラム第2陣の記録

テーマ：スポーツ交流（サッカー）

派遣国：カンボジア王国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、日本のサッカー青年および引率者計18名がカンボジア王国へ派遣され、派遣国における、日本の政治、経済、社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、2018年10月29日～11月6日の日程で「スポーツ交流（サッカー）」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、政府関係者との面談、日本のODAサイト、日系企業等の現場の視察、ホームビジットを行い、日本と派遣国との関係と日本の国際貢献に関する知見、カンボジア人や生活に対する理解を深めました。サッカー交流を通じて、同世代の選手や地域の人々との友情を育むとともに、日本のサッカーの魅力、2020年に東京で開催されるオリンピック、パラリンピックを紹介し、日本のスポーツ精神や技術等の対日理解を促す発信をしました。帰国前の報告会では、プログラム中の発見と、プログラム経験を活かしたアクション・プラン（帰国後の活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】

福島県立ふたば未来学園高等学校（JFA アカデミー福島）18名

【交流時の日本事情の説明概要】 学校紹介、高校生活、日本の文化（相撲）、サッカー

2. 日程

- 10月29日（月） 【オリエンテーション】、成田国際空港出発
プノンペン国際空港到着
【訪問・自主練習】（於：オリンピックスタジアム）
- 10月30日（火） 【表敬訪問】 在カンボジア日本国大使館
【表敬訪問】 教育・青少年・スポーツ省
【表敬訪問】 カンボジアサッカー連盟
【訪問・自主練習】（於：オリンピックスタジアム）
- 10月31日（水） 【訪問・講義聴講】 JICAカンボジア事務所
【文化視察】 トゥールスレン博物館
トゥールトンボン（ロシアン）マーケット
【FFC*アカデミー生徒との交流会】 *FFC：カンボジアサッカー連盟
【スポーツ交流①】 カンボジアU18アカデミー生徒とのサッカー親善試合（於：オリンピックスタジアム）
- 11月1日（木） 【文化視察】 国立博物館、王宮、【ワークショップ】
【スポーツ交流②】 サッカー合同練習（於：オリンピックスタジアム）
- 11月2日（金） 【学校交流】 バックトゥック高校、【ワークショップ】

- 【スポーツ交流③】カンボジア現地サッカーチーム・ヴィスカ
(Visakha) FCとのサッカー親善試合
(於：オリンピックスタジアム)
- 11月3日(土) 【ホームビジット】プノンペン市
- 11月4日(日) 【文化視察】ワットプノン、【日系企業視察】イオンモール
【ワークショップ】
- 11月5日(月) 【成果報告会】、【歓送会】
- 11月6日(火) 帰国

3. プログラム記録写真

	
10月30日【表敬訪問】 在カンボジア日本国大使館	10月31日【訪問・講義聴講】 JICA カンボジア事務所
	
10月31日 【FFC アカデミー生徒との交流会】	10月31日【スポーツ交流】カンボジア U18 アカデミー生徒とのサッカー親善試 合
	
11月1日【文化視察】王宮	11月2日【学校交流】 バクトウック高校

	
11月3日【ホームビジット】	11月4日【文化視察】ワットプノン
	
11月5日【成果報告会】	

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ サッカー青年

JICA では、日本とカンボジアの様々な交流関係があることを知りました。そこで日本がカンボジアにたくさんの支援をしていることを知ることができました。特に川と川をつなぐために日本が建設した「きずな橋」がどれだけカンボジアの人に役に立っているか実感しました。今回のプログラム一番で印象に残ったのはホームビジットです。実際にカンボジアの人と接してみて、やさしかったし、人柄がとても良かったです。僕たちよりも英語が話せたのでとても驚きました。私も改めて英語を頑張ろうと思いました。また、カンボジアの人たちは、日本にすごく憧れていることを知りました。カンボジアのイオンは、日本にあるイオンの大きさとは比べ物にならないくらい大きくてびっくりしました。しかも日本企業がたくさんあり、驚きました。サッカー面では、FFC アカデミーと VISAKA FC から、最後まで諦めない気持ちというものを改めて考えさせられました。今回の経験は自分の夢を実現させるためのアイデアを多く得ることができました。

◆ サッカー青年

日本の北九州市とプノンペンには姉妹都市という関係があって、自分は日本とカンボジアにそのような関係があることを初めて知りました。例えば、プノンペン市内の水を飲めるようにしたり、カンボジアに「つばさ橋」を作ったりしたことです。この他にも日本がカンボジアに関わっていること知りました。またそれと同時にこうしたことができたのは日本の技術力が高かったからだと感じました。カンボジアはたくさんのバイクが走っていて、中には3人乗りや4人乗りをされていて自分が見た中では5人乗りが最多でした。日本では確実に違反ですが、カンボジアではそれが普通でかなりびっくりしました。自分はホームビジットでプノンペン市内から離れ郊外に連れて行ってもらいました。そこで感じたことはプノンペンと違って郊外は車やバイクが少なく、高いビルや建物も少なかったことです。やはりプノンペンはカンボジアの中でも栄えている市

だなと感じました。日本のＪリーグとカンボジアのＣリーグには深い関係があることを知りました。また、カンボジアのサッカー少年やプロの選手は、日本のＪリーグにあこがれを持っていて、将来Ｊリーグでプレーをしたいという選手もいて、日本人以外にもそのような夢を持っていることにとっても刺激を受けました。実際にFFC アカデミーとVISAKA FC と試合をしてみて感じたことは、まず自分たちより勝ちたいという気持ちが強かった気がしました。やはりＪリーグに本当に憧れを持っているからではないかと感じました。

◆ サッカー青年

私のカンボジアに対するイメージは、昔の内戦のこともあり、なかなか発展していない状況だと思っていました。しかし、実際にカンボジアの風景を見ると自分が想像していたものとははるかに異なり、街には高層ビルが立ち並び、道路は車やバイクがたくさん通っており、街中に人々があふれかえっていました。第一に現段階でのカンボジアの発展に一番驚きました。カンボジア人は日本人を大変リスペクトしていてプログラム中、様々なカンボジア人に会い関わってきたけれども、全員がやさしく接してくれてとても好印象を持ちました。片言の英語でも最後まできいてくれて理解しようとしてくれていてうれしかったです。日本大使館では日本とカンボジアの外交関係を教えていただきました。日本の自衛隊や様々なボランティアを派遣してカンボジアの地で活躍していることが分かりました。カンボジアの教育省では、現在の取組みや今後の目標などを勉強しました。JICA では、JICA の取組み、実際の活動内容を学びました。日本の支援もあり、日本とカンボジアは仲が良く関係が深いのだということがわかりました。人生初となるホームビジットでは、カンボジア家庭の暮らしぶりがわかりました。家はとてもきれいで、洋風に設計されていて、木ではなくコンクリートで作られていました。家で食べさせてもらった料理はとてもおいしかったです。短い時間でしたが本当に楽しく、いつも寮生活をしている自分たちにとっては、自分の家に帰れた感覚があり、うれしかったです。しかしホームビジットで改めて英語の必要性が分かりました。もっと英語を勉強して、海外の人ともコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ サッカー青年

今回、日本のスポーツ、歴史、学校生活（アカデミーの生活）を紹介しに来てくれた日本の学生と出会えて、本当にうれしかったです。特に、日本人からサッカーの技術を学べたことは、特別でした。皆さんの経験を共有してくださり、ありがとうございました。

◆ サッカー青年

日本人と試合をし、日本人が礼儀を重んじることを肌で感じることができました。交流を通じてスポーツに対する理解が深まりました。そして彼らと一緒に親善試合ができ、技術を披露しあえたことが本当にうれしかったです。このような機会があればまた参加したいです。

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Overview 1. Dissemination of information through our parents 2. Give presentation on our experiences to other members 3. Submission of proposal to JFA	① 今回の実りあるカンボジアの人たちとの交流について、多くの人と共有できるよう、私たちの両親の協力を経て、情報発信をします。 ② 私たちのプログラム体験や発見を今回参加していないチームメンバーと共有するため、プレゼンテーションを実施します。 ③ 今回の文化交流も含めた海外遠征は、大変実りあるものだったので、こうした交流を拡大してほしい旨、JFA へ嘆願書を提出します。
---	---

7. 現地報道

	
カンボジア・トメイ紙 (11/1/2018) 日本とカンボジアのサッカー交流試合について	クメール・タイムズ(10/30/2018) 日本の青少年が交流試合のためにカンボジアに到着したことについて